

# 薩木 永吉（さつき・えいきち）

## 1、プロフィール

日大芸術科映画科在学中に脚本、演出を手がけ、太平洋戦後シベリヤに抑留、難病にさいなまれたがラジオドラマの分野で復活、劇団創弦座の脚本執筆など地方演劇に貢献した。

<生没>

1923(大正 12)年 10 月 27 日 ~ 1962(昭和 37)年 8 月 20 日

<代表作>

戯曲「欲たかれ」「天国からの脱出」「破琴」

放送台本「藪と鶯」「ここに光を」「ひば林」「薩木永吉集」

<青森との関わり>

北海道札幌市に生まれたが、入隊、敗戦後病いに倒れ、父の死後母の郷里の青森に移住。放送劇作家として出発。

## 2、作家解説

薩木永吉は 38 年という人生を激しく、しかも果敢に生きた。大正 12 年 10 月 27 日札幌市に生まれ、小学校の頃から絵や文章が得意であった。落語を自作自演して見せ、人を喜ばせたりした。映画、演劇を好んだ彼は昭和 17 年念願の日本大学芸術科映画科に入学する。昭和 18 年「天翔ける兵器」と「富岡機銃作動篇」の映画制作で脚本と演出を担当し、理研最優秀賞と佳作賞を受賞、文部省選定映画となった。小津安二郎にも演出家としての才能を高く評価された。順風満帆な彼の道に影を落としたのが太平洋戦争であった。昭和 19 年召集を受け樺太に入隊。敗戦と共にシベリヤに抑留、重労働に従事、遂に風土病に倒れ全身不随となる。

昭和 23 年、日本に帰還。京都、東京、札幌など各地の病院に移送され、10 月北海道大学病院に入院、脊髄切開の大手術を受ける。しかし、快方に向かわず

結局自宅療養となる。これをきっかけにラジオドラマの執筆をはじめNHK札幌放送局から入賞作を放送。昭和 25 年父死去。母方の親戚を頼って母と妹と共に青森市鶴ヶ坂に転居。昭和 27 年NHK仙台放送局のドラマ批評文に応募、1位入賞。同年青森市浦町橋本 286 に転居。NHKラジオドラマの懸賞に応募した「藪と鶯」が1位入賞して全国に放送された。この頃より地元NHKやRABからの脚本の依頼があり、車椅子生活ながら多忙なシナリオライターとなる。昭和 30 年4月、妹の結婚を機に渡辺金次郎主宰の創弦座のために「破琴」1幕を執筆、33 年「地方演劇」に同人として参加、同誌第2号に1幕物「欲たかれ」を発表、創弦座 10 周年記念事業の一つとして作られた映画「北の群像—ある地方劇団の記録」の脚本と演出を担当。半年がかりで完成。青森県としては初めての文部省選定映画となる。昭和 34 年5月「天国からの脱出」を上演。「東奥日報」のラジオ・テレビ評を半年間執筆、昭和 36 年 11 月膀胱結石で青森県立中央病院に入院し手術を受ける。翌 37 年8月 20 日自宅にて死去。享年満 38 歳。

### 3、資料紹介

#### ○『薩木永吉集』

図書

1969(昭和 44)年8月1日

180mm×135mm

薩木永吉の作品の集大成である。戯曲「破琴」「天国からの脱出」ほか2編、放送台本「ここに光を」「遭難」ほか2編及び随筆1編、末尾に薩木永吉略年譜を収めてある。序文は「鬼才薩木永吉」と題して創弦座の渡辺金次郎が書き、亀山兵剛が一文を寄せている。

#### ○『薩木永吉集』

視聴資料(舞台写真)

1956(昭和 31)年

60mm×100mm

作者が結婚して間もなくの年、創弦座の公演で自ら演出を担当した。会場は青森県立図書館ホール。